

有機稲作チャレンジプロジェクトの目的

農薬・化学肥料を一切使用せずに、イネを育てることは大変難しいことと考えられてきました。

高温多湿で病害虫の多い日本では不可能だと言われ、農薬を使うことが当たり前、農薬は安全といわれ世界一農薬を使用する国になってしまいました。

私たちは日本ほど美しく豊かな自然にめぐまれた国はないと考えています。そしてその豊かな自然を大切に、その恵みを活用すれば、お金も労力もあまりかけずに多くの生き物とともに健康なイネを育て、安全なお米を収穫する知恵を手にすることができます。

長年培ってきた「生き物を育む有機稲作」を農家のみなさまだけでなく、多くの市民のみなさまと共有したいと思い、プロジェクトを発足いたしました。

選りすぐりのベテラン有機農家がみなさまとともに「生き物の豊かな水田農業」を創り上げます。是非ご参加ください。

窓口案内 NPO法人 全国有機農業推進協議会
技術指導 NPO法人 民間稲作研究所

日 程

時期	お仕事の内容
12月1日～	参加申込み受け付け開始
1月第2日曜日	受入れ農家研修会
5月連休初日	種まき、ポット4枚にコシヒカリの種を蒔いて持ち帰ってください。
6月第1日曜日	ベランダで育てた苗を持参し有機水田に植えます。
7月第1日曜日	大きく育った稲の観察と追肥。そして生きもの調査を行います。
8月第1日曜日	まもなく穂がでます。クモやカエルそして害虫も数え、対策を考えます。
10月第1日曜日	イネを刈りとり、支柱にかけて乾燥させます。
11月第1日曜日	脱穀して、もみすいをして玄米にします・試食会：玄米膳呈式
1月第2日曜日	(オプション行事) 木の葉さらいと味噌づくり

平成 25 年度 有機稲作チャレンジプロジェクト会員募集

募集機関 NPO法人 全国有機農業推進協議会
技術指導団体 NPO法人 民間稲作研究所

平成 25 年度 受入れ農場

NPO法人 民間稲作研究所

有機農業技術支援センター及び付属稲葉農場

「あなたにもできる無農薬・有機栽培のイネづくり」を出版し、20haの有機農場でイネ・麦・大豆・なたね・ひまわりを栽培。地ビール用麦芽・麦茶・有機味噌・植物油などの製造も行っている。自然エネルギーを利用した有機農業技術支援センターで有機栽培・加工・製造法などを指導致します。

募集人員

チャレンジャー会員

30名

受入れ希望農家

10名

有機農業技術支援センター



NPO法人民間稲作研究所有機農業技術支援センター案内図
329-0526 栃木県河内郡上三川町下神主下原233-1
交通機関利用の場合 JR宇都宮線石橋駅東口下車 タクシーにてトータスホーム西側と伝えて下さい。所要時間5分。

自家用車の場合 東北道都賀JCから北関東道に入り壬生・宇都宮ICで降りて右折。道なりに進み旧4号線JR宇都宮線を横切り左側のゆきが丘団地に入り直ぐ右折。坂を上り左折50m先の十字路左折



ベランダで育てるコシヒカリのポット苗

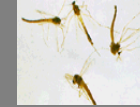


苗が良ければ、イネは健康に育ち、アレロパシーを出すので草もほとんど生えません。

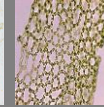
田んぼの生き物たちが支える健康なイネ

米ぬかの投入でイトミミズ・ユスリカ類等の餌動物が増加する

えさ動物
(たまたまではない)



ユスリカ成虫



藻類アミミドロ

害虫 虫を食べる天敵



カメム



ナガコガネグモ



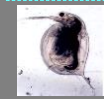
アキアカネ



ツマグロコバイ



アマガエル



ミジンコ



ユスリカ幼虫



天敵類が生息しやすい畦畔管理

6月中旬から7月中旬に中干しを延期しないとカエルと赤とんぼは増えない。

募集内容

消費者のみなさん お一人100㎡の面積を30人で分担し、3000㎡の有機水田に自宅で育てた苗を移植します。年間5回の生育管理と生き物調査、収穫・乾燥・脱穀・もみすり作業を行い、おひとり40kg以上の有機栽培コシヒカリを収穫し、持ち帰ります。

オーナー受入れ希望農家のみなさん
年間5回実施のポイント研修に御参加ください。

消費者募集人員 30人(30区画)

参加料金 30,000円/100㎡

参加費は6回の分割支払いも可能です。

収穫後コシヒカリ40kg(玄米・白米)を10月から年4回に分けて配布いたします。

(40kg/100㎡は最低補償収穫量です。)

受入れ農家募集人員 10人

ポイント研修費 年間5回 50,000円

チャレンジャー会員募集期間

平成24年12月1日より開始。

(定員になり次第締切りとします。)

募集機関

NPO法人 全国有機農業推進協議会

技術指導機関

NPO法人 民間稲作研究所

栃木県河内郡上三川町鞆堂7番地

Fax 0285-53-1133 mail inaba@inasaku.or.tv

いのち育む無農薬・有機の稲づくりで皆さんの健康と美しい日本の農業を再建しましょう。

農村では今、農薬の使いすぎや米価の下落で後継者が育たず、多くの村が崩壊の危機に直面しています。

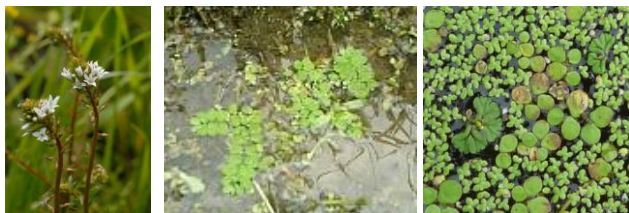
農薬や化学肥料を使わず、食の安全と環境の保全に全力をあげてきた有機農業者は消費者に支えられ元気にお米を作っていますが、作る人がなくなった田んぼの耕作を依頼され、手一杯です。そのまま放置していたのでは田んぼが荒地になり、水利施設も駄目になってイネがつかれない国になってしまいます。気が付いたら誰もお米をつくってくれない時代がもう間近に迫っています。

消費者のみなさん、子供さんの体づくりや豊かな情操を育むことも兼ねて、ひとり100㎡の有機水田を管理してみませんか。有機農業は大変、そして難しいと言われてきましたが、今は誰でもできる農法になりました。年間5回、田んぼに来て農作業を行って収穫されたお米は全て玄米か白米でお持ち帰り頂くという方式です。

ベテランの有機農家の方々が管理費と栽培指導を含め100㎡あたり30,000円で受け入れ致します。お一人あたり10kgの玄米か白米を4回に分けてお送りします。ご家族に合わせて面積を記入し、お申込みください。

有機水田に復活する

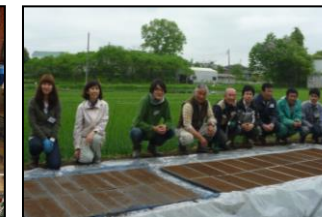
タガメトウサワトラノオ・サンショウモ・イチョウウキゴケ



楽しみながらの有機のイネづくり



4月に代かきされた有機水田に多様な生き物が復活



みんなで種まき、庭先やベランダで苗を育てます



庭先で育てたポット苗を田植機又は手植えで植えます



生き物調査で自然力を確認。生育調査で栄養管理



収穫はバインダー？手刈り？味噌づくりで餅つき